

and the nutant to pendulous capsule with a short, slender neck. It is a very variable species, and examination of many specimens from various parts of the world suggests that forms like the type of *T. sinensis* are not very rare. For example, the type material of *Bryum tosanum* Card. (= *B. capillare*) is very similar to that of *T. sinensis* in such features as leaf shape, areolation and border (cf. Ochi, 1954). The type specimen of *T. sinensis* may have been collected from a dry, sunny, open site.

It thus appears necessary to record the following new specific synonymy:

***Bryum capillare* Hedw., Spec. Musc. 182 (1801).**

Tayloria sinensis C. Muell., Nuov. Giorn. Bot. Ital. n. ser. 5: 159 (1898).
—Syn. nov.

Literature cited

Koponen, T. & Koponen, A. (1974) *Tayloria* subgen. *Orthodon* in East Asia. Ann. Bot. Fennici 11 (in press). Nyholm, E. (1956) Splachnaceae in Illust. Mossfl. Fennoscandia. II. Musci, fasc. 2: 177-189. Ochi, H. (1954) Contributions to the mosses of Bryaceae in Japan. Journ. Jap. Bot. 29(2): 263-270.

* * * *

筆者らの一人である古保年は最近東アジアのセン類ユリゴケ属 (*Tayloria*) の *Orthodon* 亜属を再検討したが (Koponen & Koponen, 1974), それらのうち *T. coreana* (韓国慶尚南道智異山産) と *T. sinensis* (中国 Shensi 省産) とはユリゴケ属のものではなくて、それぞれセンボンゴケ科およびカサゴケ科のものであることに気づき、さらに詳細な研究をそれぞれの科を専門としている斉藤および越智と共同して行った。基準標本をくわしく検討してみると、*T. coreana* はカタハマキゴケ (*Hyophila involuta* (Hook.) Jaeg.) に、*T. sinensis* はハリガネゴケ (*Bryum capillare* Hedw.) にほかならないことがわかった。これら 2 種はいずれも東アジアに普通に産する種類である。

□田村道夫：被子植物の系統 A5 版, 344 頁, 1974 年 2 月, 三省堂発行, 3,800 円。植物の進化生物学 4 巻のうちの第 1 巻で、第 2 巻, 河野昭一: 種の分化と適応, 第 3 巻, 堀田 満: 植物の分布と分化がつづいて発行され, 近く第 4 巻, 浅間一男: 被子植物の起源が出る予定である。従来の分類学の著書が, エングラーなどの体系を紹介した記述的なものが多かったのに対し, 形質の系統進化の面での解析を中心としている点, 外国の図書にも見られない意欲的なものである。系統進化の研究は, この十数年のあいだにようやく本格化したばかりで, 研究の方向を示してくれる点でも類書のないものである。将来この内容はさらに豊富になり, 精密となるだろう。(山崎 敬)